

302
246

算法童子問

首卷

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5

始



372
6
246

算法童子問

村井中漸著

首卷

題 算法童子問



先せん循じゆん先生せんせい泚し依よ草そう子し賦し

行かうしり亦また小せう児に乃なり相あひま見み具ぐとと也や一いつ

日よ書し曰い其その来きたりて其その績しよく篇へん賦し請う

不ふ才さい厚こう情じやう年ねん老らう多た矣や忘わす也や



中少安んらるる事其徳事にあ
きんく書曰はく是は成徳の事
へ子も書くは六年の如く才名と成
教のとりり今亦乃書きよと念問
しそ世益あり有益小道すは浅き
よも源小るる事いふる人をも誤れ

々々山一翁小經濟乃一助と云
ふい念事ふくすや

お水歳在辛丑

一歩あ丘影を以漸撰

首七

算法童子問 首卷 目錄

商賈

- 一 錢割早算用
- 二 金を銀にかける算
- 三 銀を金にかける算
- 四 錢を銀にかける算
- 五 錢を金にかける算
- 六 金を錢にかける算
- 七 錢を取錢ノ相場を忘る事
- 八 銀を取金ノ相場を忘る事
- 九 金を取金ノ相場を知事

十 貳朱銀ノ算

十一 買物倍々の事

十二 斤 量

十三 交 易

十四 利 足

十五 買物 銭数ほと取事

十六 配 分

十七 異乗同除

十八 舟の積つこり

十九 乗除定位

くらぬとさたむ

算法童子問 首卷

商 賈

① 銭割早算用

相場ハ八匁四分より十二匁
六分迄 但分位ニ至る

銭相場九匁四分五厘の時銀一匁ニ銭何程問

答百五文五分

術実二十目と置其内相場九匁四分五厘を引はえ
る也

右は相場九匁四分五厘より十匁迄の時かくのこと
し拾匁より以上は時の相場にその因法をかけそれ
をその相場の実の内にて引はえらる也たとへば



錢相場十又五分の時銀一匁ニ錢何程問

答九十一文四分

術十又五分に因法九をかけ実百八十五又九分の内にて引之

八又四分より
八又八分まで

一因法十三 實二百廿七又四分

八又八分五厘より
九又一分五厘まで

一因法十二 實二百十八又六分

九又二分より
九又四分まで

一因法十一 實二百〇九又五分

九又四分五厘より
十又四分まで

一因法なし 實二十目



十又一分より
十又五分まで

一因法九 實百八十五又九分

十又六分より
十又五分まで

一因法八 實百七十五又三分

十一又六分より
十一又九分まで

一因法七 實百六十三又九分

十二又二分より
十二又二分まで

一因法七 實百六十四又

十二又三分より
十二又六分まで

一因法六 實百五十一又八分

② 金を銀に換る算

金十二両あり相場六十目にして代銀を問

答七百二十目

術十二両と置六十目をかくる也

金十五両三步あり相場五十八両にして代銀を問

答九百十三文五分

術十五両七五と置金一步は二五二歩は七五と置し五十八両を

かくる也

③ 銀を金に換る算

銀一ノ五百九十三文有金相場五十九文にして代金を

問

答二十七文

術銀目一ノ五百九十三文と置五十九文にてぬる也

銀一ノ六百卅八文あり相場六十目にして代金を問

答廿七両一步と余銀三文

術銀目一ノ六百卅八文と置六十目してぬればニ七

三とふる此内廿七両ニ五一步は金を引のこり五に

六十目をかけもどせば余銀三文とふる也

④ 錢を銀に換る算

錢三百八十四文あり銀一文に九十五文替にして代銀

を問

答三文九分と錢一文五分

術三百八十四文と置内目錢三十二文引のこり三百

七十二文を九十五文にてわれは三多九分とふるは
した一五は錢一文半こ　これは銀目のすへに錢あ
る事をすめすものこ

⑤ 錢を金に換る算

錢廿五ノニ百文あり兩に六メ三百文にして代金を問

答四兩

相場六十目

術錢目を置六メ三百文にてわれはふる、こ

錢三十一メニ百卅四文有兩に四メ八百七十六文替に
して代金を問　金相場六十目

答六兩一步と余銀九多一分〇八毛

術錢卅一メニ百卅四文と置百文以上に九六をか

れは二十九メ九百八十六文長百と成実とし別に四
メ八百七十六文と置又百文以上に九六をかけ四メ
六百八十四文と成を以て実をわりその内六兩二五
を引のこりへ六十目をかくる也

⑥ 金を錢に換る算

金五兩有兩に四メ八百七十文がへにして代銀を問

答二十四メ三百六十二文

術錢四メ八百七十文と置百文より以上四メ八百文
はかりへ九六をかけはした六十二文をくわへて四
メ六百七十八文とふるこれへ五兩をかこれほ二十
三メ三百九十と成長百これ九六にてわれは九六

百と成てあるこ

金十三兩二歩有兩に四ノ九百文替にして代銀を問

答六十六ノ百五十文

術十三兩五と置四ノ九百文をかけ六十六ノ百五十文とあるこ

⑦ 錢を取錢の相場を知る算

銀百十七又九分ノ代に錢九ノ八百廿四文取時錢の相場を問

答相場十二又

術錢九ノ八百廿四文と置はした廿四文ばかりへ九六ノ目錢一文加へ九ノ八百廿五文と成を法とし銀

目百十七又九分をわると

銀六十目ノ代に錢六ノ二百四十八文取時錢相場を問

答相場九又六分

術錢六ノ二百四十八文と置四十八文ばかりへニ文ノ目錢を加へ六ノ二百五十文と成を法として六十目をわると

⑧ 銀を取金ノ相場をえる算

金五十七兩ノ代に銀三ノ廿六又三分取時金相場を問

答金相場五十九又

術金五十七兩まで銀三ノ廿六又三分をわると

⑨ 金を取金ノ相場をえらる算

銀三ノ五百目ノ代に金五十八兩一步と余銀五又取時
金ノ相場を問

答金相場六十目

術三ノ五百目と置此内余銀五又引残り三ノ四百九
十五又を五十八兩二五にわると

銀一ノ五十二又五分ノ代に金十七兩二歩と銀六又
請取時金ノ相場を問

答金相場五十九又八分

術銀一ノ五十二又五分と置此内六又引残り一ノ
四十六又五分を金十七兩五にわると

⑩ 貳朱銀の算

ニ朱銀八片は小判一兩にあたるかわり俣へ小判
一兩と置八にわると一ニ五と成ると此によつてニ
朱銀一片の時は算盤に一ニ五と置べし〇二片の時
は二五〇三片は三七五〇四片は五〇五片は六二五
〇七片は八七五〇八片は一と置べし
ニ朱銀にて四十二片有小判にして何ほど、問

答小判五兩一步

術四十二片へ一ニ五をかくると〇又八にてわると
おふし

同七十五片を小判にして何ほど、問
答小判九兩一步とニ朱銀一片

術七十五片へ一ニ五をかけ内九兩ニ五を引残り一
ニ五はすふはちニ朱一片の數こ

小判七十五兩とニ朱二百片と有ことくく小判にし
て何不ど、問

答小判百兩

術ニ朱ニ百片へ一ニ五をかくれば小判廿五兩と知
是へ七十五兩を加へて合て百兩と成こ

小判三百兩此内ニ朱二分半ざしにてニ朱何ほど加ふ
と問

答ニ朱七十五兩加ふ 但六百片こ

術三百兩へ二分半をかくるこ

小判十四兩三步此内へニ朱二分半加ふる時はニ朱何

程加ふと問 相場六十目

答ニ朱銀三兩ニ歩ニ朱と銀三匁七分五り

術十四兩七五と置二分半をかけ三六八七五となる

此内三兩六ニ五を引のこりへ金相場六十目をかけ

銀三匁七分五りと知こ

小判三百兩ノ内へニ朱七十五兩加る時はニ朱何分ざ
しにあたると問

答ニ朱二分半ざしにあたる

術ニ朱七十五兩と置小判三百兩にてわる也

ニ朱百兩を小判百兩に替る時ニ朱一兩分付銀二分
づゝ包み代を引時は惣包み代何程と問

答惣包み代二十目

術百兩と置二分をかくる

ニ朱銀にて三十七兩あり此れを小判にかける時ニ朱
八片に付色代二分づゝ此ニ朱銀の内にて引ときは小
判何ほどと問 相場六十目

答小判廿六兩三歩と余銀七匁七分ニり四毛

術廿七兩に相場六十目をかくればニメニ百廿目と
なる此れを別に置ニ朱銀八片ノ代六十目に色代二
分加へ六十目〇二分にて別に置たるをわれば三六
八七七〇七六と成を其内廿六兩七五引残りへ六十
目をかくれば余銀と成

⑪ 買物倍々の事

ある人錢三メ文にて長百くだもの三色を買ふ、まづ
梨を買てその一倍にりんごを買ひりんごの一倍にも
もを買ふ、かくのごとくして錢尽きたり、たゞし梨
一つのぬ九文りんご一つのぬ五文もも二つのぬ三文
こきのぬねとかずと何ほどと問

答 ふし 百二十 ぬ一メ〇八十文

りんご 二百四十 ぬ一メ二百文

もも 四百八十 ぬ七百廿文

術ふし一っりんごニつも、四つのぬ合廿五文を法
とし錢三メ文をわればふしのかず百二十とふるそ
れを倍してりんごとしりんごを倍してもゝの數と
する

① 斤 量

たはこ二百目有是を斤目に直して何斤に成と問
一斤は百六十目

答一斤二分五厘

術二百目と置定法六二五をかくるこ

同三百八十目有斤目に直して何斤ぞと問

答二斤三分七厘五

術三百八十目と置六二五をかくるこ

右六二五を百六十目一斤の因法とする事は百目を
十六にわること、うへ

惣じてたはこにかぎらず百六十目一斤のものは秤
り目を斤目に直すとき六二五をかくれは知こ

茶一斤有^但二百五 此代銀十二匁茶一匁三百目の代を
問

答六十二匁五分

術茶一匁三百目と置定法四をかけ五斤ニ歩と成る
是へ十二匁をかくるこ

茶三斤有^但二百一 此代二十八匁茶五百目の代を問

答廿三匁三分三厘

術茶五百目と置定法五をかけ二斤五分と成る是へ
廿八匁をかけ三斤にてわること

右二百五十目一斤の時^は四 二百目一斤の時^は五
を因法とすべし

人參樹目十三匁五分有兩に直して何程と問

答三兩と三分セリ五

術十三匁五分と置因法二五をかくるこ

同一兩代百二十五匁人参五匁三分の代を問

答百六十五匁六分ニリ五

術百二十五匁と置因法二五をかけ成一匁二分五リ

と成るこ此人参一匁の代之是へ人参五匁三分をか

くるこ

丁子一斤有目六十代十五匁丁子一兩の代を問

答三分七厘五

術十五匁と置因法六二五をかけ又一兩の目四匁を

かくるこ

およそ消子肉桂白木蒼木貝母麻黄延胡索木瓜芍薬

厚朴川弓枳实杏仁麦門細辛丁子は一兩を四匁とし

百六十目を一斤とすかるが故に一兩の因法は二五

にして一斤の因法は六二五ふり是を唐目といふ

宿砂甘草大黃黄芩石膏は二百三十目を一斤とす是

をしろ目といふ

紅花五斤有目八十目代百二十目紅花一兩の代を問

答五分三厘三

術百廿目と置除法二にわり又九にわり又五斤にわ

り其のち一兩の目四匁をかくるこ

右百八十目一斤の時は除法二と九との品により二

百十匁一斤のものは除法三にわり又七にわるべし

紙五束有目四代二十一匁紙百五十枚に付代何程問

答一丈五分七五

術紙百五十枚と置因法二五を掛けそれへ廿一丈を
かけて五束にてわると

同一薦有^{こも}束^{こも}入^{こも}代四十二丈紙廿四束三百枚ノ代を問

答卅四丈六分五

術廿四束に四をかくれば九千六百枚と成へ三百枚
加へ合九千九百枚へ因法二五を掛け又四十二丈を
かけそれを三十束にてわると

木綿一反有代銀七丈一尺に付何ほど、問

答二分八

術七丈と置定法四をかくると

嶋木綿一反有代銀十三丈三尺に付何ほど、問

答一丈五分六

術十三丈と置定法四を掛け又三尺をかくると
右惣じて木綿反物に四を定法とする事は一を置て
二丈五尺にわれば四と成申へふり一反は二丈六尺
といへども二尺三尺づゝ小き水にきり賣にする時
はかからず切^{きり}こむもの之然れば賣ものに損あり故
に二丈六尺の内一尺を切こみ料^{れう}に引のこり二丈五
尺とするこ水^{うづ}老賣^{らう}の説をもつてこゝに記す

⑬ 交易

國府たほこ一斤に付代三丈四分丹波たほこ一斤に付
代二丈七分國府五斤の代に丹波何程問

答云丹波六斤二分九リ六

術國府代三々四分へ國府五斤をかけ丹波二々七分にてわると

布一反代九々五分木綿一反代七々五分木綿三尺八寸に布何尺と問

答布三尺

術木綿七々五分へ木綿三尺八寸をかけ布九々五分にてわると

上酒一樽代十二々下酒一樽代九々下酒三樽に上酒何ほどと問

答上酒二樽二分半

術下酒九々へ下酒三樽をかけ上酒十二々にてわると

こ

右の類は下酒と下酒と同じものをかけ合し異ふる上酒にてわると覺ゆべし此三條みふ同術之

④ 利息

銀九々三分七リ五毛づ、毎月利足出之何ヶ月にして金何兩と成と問 金相場

答ハヶ月にして金一兩一步に成る

術金一分代十五々と九々三分七リ五を左右に置たがひに引合すれば左右等数一八七五と成を法として十五々をわればハヶ月と知之又その等数にて有銀をわれば歩割五とあるこれ金一兩一步之

元金卅六兩借事五ヶ月但し一ヶ月ニ元十五兩ニ付利
金一步に定此利金何程と問

答三兩

術三十六兩と置十五兩にて割こ此に五ヶ月をかけ
歩判十二と成を四つにわるく

元銀五十一匁一ヶ月利銀八分五厘之是は元金何兩に
すれば利金一步に當ると問 金相場六十目

答元金十五兩にすれば利金一步に當る

術金一步代十五匁と置元銀五十一匁を掛利銀八分
五厘までわり又相場六十目にてのぞく

元金七十二兩借事五ヶ月此利金合六兩是ハ利金一
歩にすれば元金何兩に當ると問

答利金一步の元金は十五兩に當る

術利金六兩と置五ヶ月にわり四をかけ歩判四切八
分と成を法にして元金七十二兩をわるく

元金十五兩に付金一步の利は百兩の利何程問

答百兩に付利金一兩ニ歩と銀十匁

術金一步を二五と置百兩をかけ十五兩にわるく

五年の元利合銀三百六十目〇三分六厘之但初年の利
は三割二年目は二割半三年目は二割四年目は一割二
分五年目は一割にして此元銀何程問

答元銀百五十目

術初年二年三年四年五年の利割にをのく 一ヶを
加へて夫がひにかけ合しニ四〇ニ四と成を法とし

銀高をわると

銀四百五十目を甲乙二人にかす時甲は年二割の利乙は年二割半の利今甲乙共に利銀同じ程づゝ請取る時甲乙の元利何程問

答 甲元銀二百五十目 乙元銀二百目

術 銀高に甲の利二割をかけ甲乙の利の和にてわれは乙の元銀二百目と知之又銀高に乙の利二割半をかけ甲乙の利の和にてわれは甲の元銀二百五十目と知之

十二ヶ月分の元利合錢一メ文之但一ヶ月百文に付利四文づゝ元錢何程問

答 元錢六百六十四文

術 十二ヶ月に利四文をかけ九六を加ふれば一四四となるを法とし九百六十文をわれば六百六十六文六分と成をはした目錢ニ文余を引之其餘はかぬに入組とも天元を用ひてその算本を盤にうつすべし

⑤ 買物錢數ほと取事

梨一つの代廿三文 桃一文に十六ツ、價錢百長の數と同じく梨桃を買度といふ時をのゝ何程問

答 梨十五 代三百四十五文

桃三百五十二 代廿三文

梨桃の數合三百六十七

代残合三百六十七文 但長残

術桃の數十六ニ梨の代廿三文をかけ三百六十八と成る別に置又其内一つ引て惣數三百六十七とさむ此に桃十六残別に置たるを以て一の位までわ此に商に梨數十五 不尽ニ桃數三百五十二と知又右に瓜をくわへて三種にする時瓜一つの代三文にして何程問

答

梨 十五

代三百四十五文

瓜 十五

四十五文

桃 三百八十四

二十四文

術瓜の代三文に桃の代十六文をかけ四十八と成る別に置その内一つ引残りへ桃十六をかけ別に置た

るを以て一の位までわ此に商に瓜數十五 不尽ニ桃數三十二前の三百五十二を加へて三百八十四と知之志かれとも此術品數おほきときはくるふなり

⑤ 配分

銀九メ百七十六文を上中下七十人に配分するとき内上十五人中三十七人下十八人と但し下七人の取をもつて中一人の取とす中三人の取を以て上一人の取とすおのゝ 何ほどと問

答

上一人取銀三百廿五文五分

中一人取銀百〇八文五分

下一人取銀十五文五分

術一と置これを下として七を掛けて中としその七
へ三を掛けて上とす此上に人数十五を掛けて甲と
名づく〇の中に人数廿七を掛けて乙と名づく〇下に
人数十八を掛けて丙と名づく〇甲乙丙を合して五
九二を得これに法とし銀高をわれば下一人の取銀
と成るぞ水に七を掛けて中一人の取銀とすぞ水に
三を掛けて上一人の取銀となるこ
銀三ノ目を甲乙丙三人に配分する時銀高の内甲は七
分取乙は五分丙は三分取時きのくを問

答 甲取一ノ四百目

乙取一ノ目

丙取六百目

術七つ五つ三つ合て十五戎法とし銀高をわれば二
とふるぞ水へ七をかくれば甲の取之五を掛れば乙
の取三をかくれば丙の取銀之

ホ、に僧百人饅頭百あり和尚おしやうには饅頭一人に三つ宛
伴僧には三人に一つ宛わかつ時和尚幾人と問

答 和尚廿五人

術まんがう三と一と合して四を法とし僧百人をわ
れば和尚のかず廿五人とふるこ

あぬいもと二人して布をおりて七丈二尺を得たり、
あぬはいもとへとらさんといふいもとにはあぬにた
てまつらんといふその父聞てあぬが續たる麻糸の目
二百目いもとは二百五十目かれば三丈二尺はあぬ取

童子問
べし四丈はいもととるべしと布をさきてあたへける
とく

術姉妹のをりたる糸目合て四百五十目を以て七丈
二尺をわれば一六とふるそれへあ収の二百目をか
くれば三丈二尺を得るこ又妹の二百五十目をかく
れば四丈を得るこ

⑤ 異乗同除

米三石あり代金四兩之廿一石の代を問

答 廿八兩

術廿一石と置四兩をかけ三石にてわる

つむぎ八疋あり代金九兩之金五十四兩につむぎ何程

問

答つむぎ四十八疋

術五十四兩に八疋をかけ九兩にてわる

右は九兩にて八疋をわり金一兩に付つむぎ何程に
あたるといふを知て惣金高五十四兩にかくればつ
むぎの数あるこふかしそれまでは算盤に不尽出
来る事有これによつて乗を先にして除を後にする
時は不尽ある事ふしこれを異乗同除といふ其餘は
此米とつむぎとニヶ條にてふざらへあるべし

舟の積

ふね一艘あり長さ九間ふかさ一間かた二間この舟に

俵米何石つむぞと問

答 百八十石餘つむ

畧術長九間にかた二間をかけ又深さ一間をかくれ
ば十八とふるこれを十倍して百八十石と知る
○此術は浪草の算士某の説といへり再事に先たる
が此法を用ひてたがひふしといふこれ正術あらざ
れども其大むねをふるべし

⑤ かけわりくらねえため
乗除定位

乗位

薪二万把有一把に付代銀五厘惣代を問

答一メ目

前万の位より分の位まで六位下りて分の位を厘の
位として二万と五厘との二十五とかけ合たるを厘位よ
り上へ六位のばれは貫の位よめたる申へ一メ目と
さだむるこ

三十三間堂一間六尺五寸にして惣丈数を問

答二十一丈四尺五寸

人数千八百五人有一人五合扶持にして惣扶持を問

答九万石

石の類みなかけざんにしてくらねの見やうまへと
ふぞらへふるべし

除位

米数一億二千七百六十万粒あり但一件のうち米数

六万三千八百粒入時石数にして何程間

答二千石

術実数の万のくらぬより一位のはれは十萬のくらぬこれを一乃位とさだむさて実を除てニと成を一の位よりかぞへて四位のはれは千の位にあたる申へ二千石とさだむるこ

銀一匁有四人に分る時一人前何程間

答二糸五忽

米九万石有これを

五百石づゝ毎につむ時は 百八十艘

一石八斗づゝ分る時は 五万人

四斗を一俵とする時は 廿二万五千俵

一人五合扶持にすれば 千八百万人
術みふ除算にして位の見様前のごとし

算法 童子問 首巻 終

302
6
246

昭和十一年四月二十日印刷
昭和十二年四月廿四日發行
東京市目黒区月九前一四五番地
發行所 兼印刷人 澤村 寛
印刷所 古典数学書院
東京市目黒區月光町一四五
發行所 古典数学書院

原本天明四年版本に依り謄寫す

童子册

302
246

終